発表　7

主体的に学びに向かう生徒を育てるための指導と評価の一体化の工夫

－ＩＣＴを用いた授業の振返りの充実を通して－

長期研修生　　三　原　慶　彦

１　研究の目的

日々の授業で形成的評価を行い、学習や指導の改善に生かしていくという指導と評価の一体化の重要性は、多方面から指摘されている。しかし、私は、これに十分に取り組めていなかった。中央教育審議会も、評価に関する問題として、評価の結果を学習改善に生かせていないことを指摘した。

そこで、毎時間の授業の終末で、授業の振返りの文章を生徒にオンラインで記述させ、回収したデータを分析していけば、教師は短時間で生徒の状況を把握し生徒への助言や授業改善ができ、生徒は学びを実感して主体的に学びに向かうようになると考えた。本研究では、この仮説を検証する。

２　研究の内容

⑴　主体的に学びに向かう生徒を育てるための授業設計モデルの構想

主体的に学びに向かう生徒を育てるための授業設計モデルを、次のように構想した。

教師は、テキストマイニング等を用いて生徒が書いた振返りを分析する。この結果を基に、指導を改善するとともに、ＩＣＴを用いて生徒一人一人にフィードバックを行う。

生徒は、授業の振返りを書く過程で、授業中に取り込んだ情報を知識として構造化させ、定着させるとともに、自己の変容に気付く。教師からのフィードバックも取り入れ、更に学びを実感し、満足感とともに学ぶ楽しさや自己有用感等を得て、新たな努力への意欲につなげる。

⑵　実践の準備

研究協力校である松山市立中島中学校における９時間の授業を計画した。３年生１学級の９名を対象に、同校菅教諭に授業者になってもらい、理科の単元「物体の運動」を扱うこととした。

また、Microsoft Teamsの課題機能を用いて、「授業で学んだこと」等を書くことができるオンラインフォームを作成するとともに、その使用方法・活用方法を記したガイドを作成した。

⑶　実践

前述の９時間の授業について、授業終了のたびに、教師は、生徒が書いた振返りを分析し、生徒が授業の目標を達成しているかを分析するとともに、指導の問題点等を考えた。さらに、フィードバックとして、生徒一人一人に、称賛の言葉や学習方法に関するアドバイス等を返した。

⑷　実践の検証

ア　生徒の変容

生徒から、「自分の言葉でまとめることで頭が整理された」等の感想を得た。生徒は、振返りを書くことで、授業で取り込んだ情報を整理し、定着させようとしていたと考えられる。また、「主体的に学習に取り組む態度」を複数の要素に分解し、各要素の変化を調べたところ、「学びを自己調整する力」を中心に、総じて「主体的に学びに向かう力」の高まりが見られた。

イ　教師の変容

教師は、生徒が授業で何を学んだかを詳細に評価し、指導方法を的確に改善できるようになった。フィードバックには、生徒とのコミュニケーションを促進する効果もあった。

ウ　ＩＣＴを利用する利点

教師の作業効率の向上（時間の短縮）、教師・生徒とも、情報（振返り・フィードバックの記録）へのアクセス性の向上、データの蓄積の容易さという点で効果があった。

３　研究のまとめ

教師は、ＩＣＴを用いて効率的に授業の振返りを分析し、生徒の学習状況を詳細に評価して、指導を改善した。また、フィードバックにより、生徒とのコミュニケーションが促進された。生徒は、振返りを書くことで学習内容を整理し、教師からのフィードバックを読むことで学びを深めた。これらの活動を通して、生徒は主体的に学びに向かう力を高めた。今後は、この取組を大規模校で行う場合を想定して、効率的な実施方法、テキストマイニングの効果等を、継続して研究したい。